

孤独・孤立について

野澤和弘

植草学園大学副学長／毎日新聞客員編集委員

終戦直後の社会と子どもたち



浮浪児たちは文字どおり家畜のようにいっせいに駆り集められ、まさしく家畜のようにトラックに詰め込まれた。動物を数えるときのように一匹、二匹という言葉を使った。逃亡を防ぐため、裸にされたままの男の子たちさえいた。

子どもたちが孤児院から通常の教育課程に組み入れられるまでに何年もかかり、普通に教育を受けるようになってからも、親のない「施設の者」と蔑まれたのであった。

(J・ダワー「敗北を抱きしめて」)

……英国人の知人に、なぜ日本人は浮浪児を黙って見ているだけなのかと聞かれ、大佛次郎は、それは経済的な事情が許さないからだと答えたが、あとで考えてみると、それは正直な答えではなかったと彼は思った。実は、

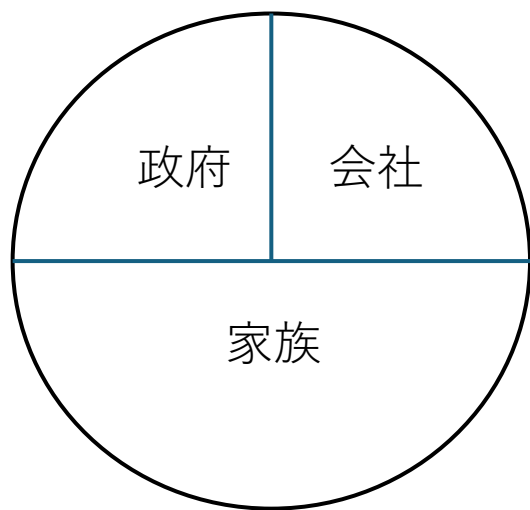
日本人は他人への愛情に欠ける国民である

というのが彼の結論であった。



「敗北を抱きしめて」

社会の変化と福祉の役割



- ◆農業や自営業が中心だった時代（互助が充実）
多世代で同居、親族や隣近所の支え合い
子育て、障害者・高齢者の介護は家族内で賄うことができた
病気やけがをしても家族や近隣の人々で支え合った
定年がないので、老後の生活保障（年金）が要らない
- ◆雇用労働が主流になると（共助・公助が必要）
子育て、障害者・高齢者の介護は福祉サービスを利用
病気やけがをしたとき、失業したときのための保険制度
定年後の生活保障（年金）が必要
会社の福利厚生（家族のための諸手当、3階建て年金）も必要
- ◆核家族やシングル家庭、一人暮らしが多いので家族で支え合うことができない ⇒ 公的福祉サービスの拡充
 - ・介護保険（2000年）
 - ・障害者自立支援法（現総合支援法、2005年）
 - ・子ども・子育て支援法（2012年）

児童福祉法

児童の出生・育成が健やかであり、かつその生活が保障愛護されることを理念とし、児童保護のための禁止行為や児童福祉司・児童相談所・児童福祉施設などの諸制度について定めた法律。**1947年（昭和22）**制定。

子ども若者育成支援推進法

子ども・若者の健やかな育成と社会生活の円滑化のための支援を目的とする。国における本部の設置、子ども・若者育成支援施策の推進大綱の作成、地域における計画の作成やワンストップ相談窓口の整備、地域ネットワークの整備などの枠組みを定めている。**2009年**に制定。

子どもの貧困対策推進法

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備し、教育の機会均等を図るために、子どもの貧困対策の基本理念・基本となる事項を定め、国等の責務を明らかにして、子どもの貧困対策を総合的に推進する。**2013年**制定。

いじめ防止対策推進法

いじめへの対応と防止について学校や行政等の責務を規定。学校は、いじめ防止基本方針を定め、いじめ対策組織を設置することが求められる。**2013年**に公布。

子ども基本法

全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することが目的。こども施策の基本理念のほか、こども大綱の策定やこども等の意見の反映などについて定めている。**2022年（令和4年）**に成立。

子どもたちの状況

- 2024年に生まれた子どもは72万人
- 児童虐待は21万件を超える
- 子どもの貧困率13・5%（7人に1人）2019年国民生活基礎調査
- いじめ73万件（小学生59万件）2024年度文科省
- 小中高校生の自殺 527人 （2024年厚労省）
- 小中学生の不登校 34万人 （2023年度文科省）
- 発達障害…通常学級に6・5%→8・8% （2022年文科省調査）

※高校進学率は98.8%

困難校（底辺校）160人（1年）→80人（2年）→40人（3年）

子ども・若者ビジョン(平成22年)

子ども・若者の成長を応援し、一人ひとりを包摂する社会を目指して

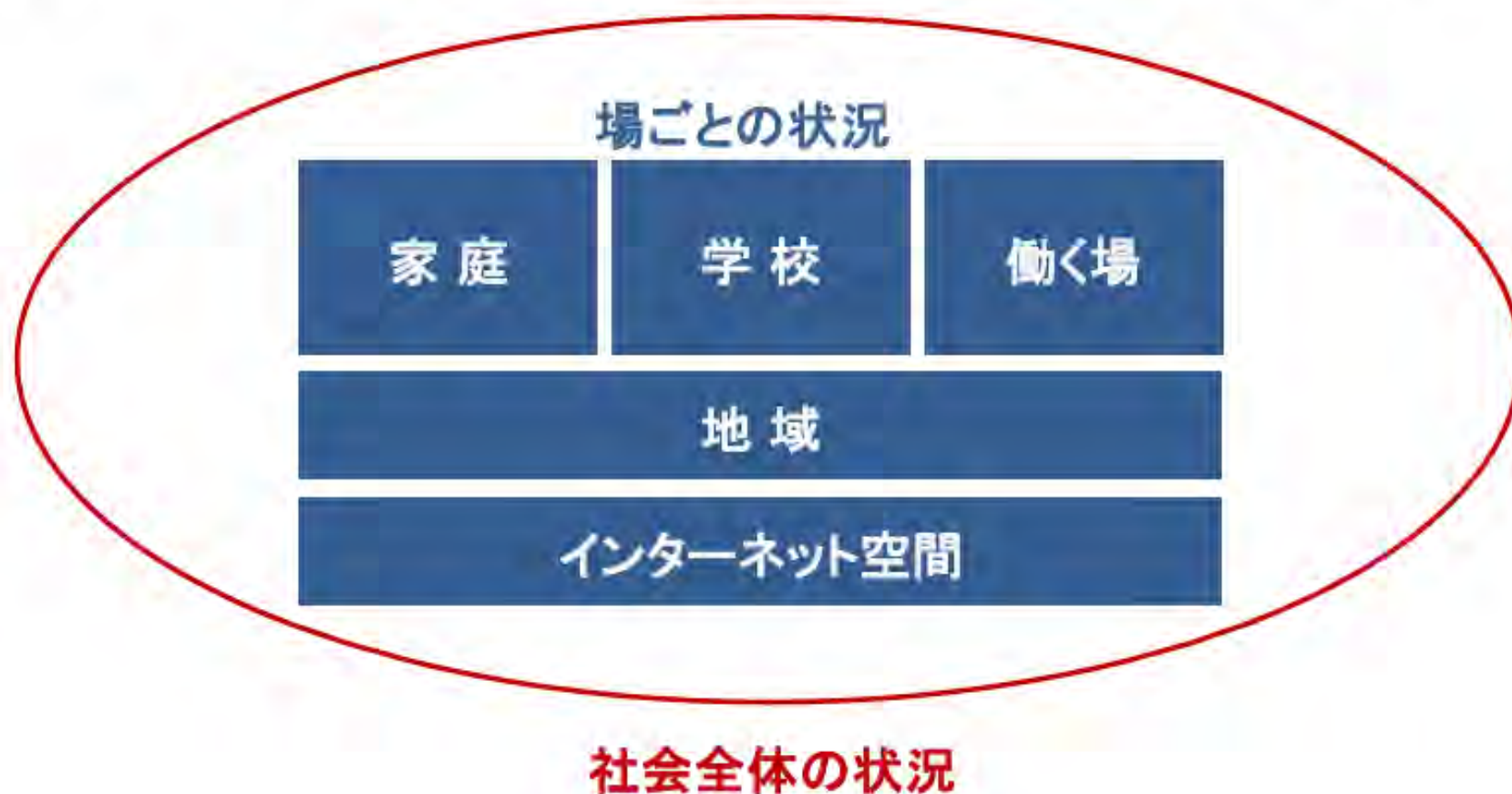
子供・若者育成支援推進大綱(平成28年)

全ての子供・若者が健やかに成長し、自立・活躍できる社会を目指して

子供・若者育成支援推進大綱(令和3年)

全ての子供・若者が自らの居場所を得て、成長・活躍できる社会を目指して

大綱では、子供・若者を取り巻く状況を、**5つの場**(家庭、学校、地域、インターネット空間、働く場)に分けて整理するとともに、これらの場を通じて影響を与える**社会全体**の状況を分析。



社会全体の状況(子供・若者の健全育成に関連する主な社会課題)

生命・安全の危機

孤独・孤立の顕在化

低いWell-being

格差拡大への懸念

コロナ禍の影響を含め、特に懸念される社会状況に関する項目

SDGs(持続可能な開発目標)の推進

多様性と包括性ある社会の形成(D & I)

リアルな体験の充実とデジタル・トランスフォーメーションの両面展開

今後の社会づくりに関する項目

成年年齢の引下げ

人権・権利の保障

ポストコロナ時代における国家・社会の形成者の育成

子供・若者の人権・権利等に関する項目

子供・若者が過ごす「場」ごとの状況

① 家庭

虐待、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー等が社会問題化。コロナ禍は、困難を抱える家庭に特に深刻な影響を与える一方、「増えた家族との時間を保ちたい」とする者が多いなど、家族観の前向きな変化も

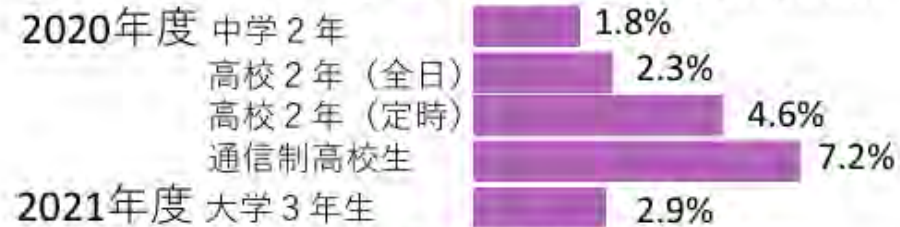
② 学校

特別支援教育や日本語指導が必要な者が増加するなど、児童生徒は多様化。自殺、不登校、いじめなど、生徒指導上の課題が深刻化。学校現場の負担は年々増大

【児童虐待】児童相談所における児童虐待相談対応件数



【ヤングケアラー】当てはまるとする者の割合



【自殺】児童生徒の自殺者数



【いじめ】いじめの重大事態



【文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」】

③地 域

近所付き合いの減少など住民のつながりの希薄化、地域活動の担い手の高齢化・固定化等が指摘される一方、コロナ禍で若者の地方移住への関心が高まり、都心部からの転出の動きも

【近所づきあい】現在の地域での付き合いの程度



※「付き合っている」と回答した割合

〔内閣府「社会意識に関する世論調査」〕

④情報通信環境（ネット空間）

教育や行政、医療などあらゆる分野でデジタル化が加速し、ネットの利活用が進む一方、SNSに起因する犯罪被害、誹謗中傷等の被害も深刻化

【SNS被害】SNSに起因する事犯の被害児童数



〔警察庁「少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」〕

⑤就 業（働く場）

近年、若者の失業率や平均賃金、非正規雇用者の割合等は改善傾向にあったが、若年無業者（ニート）の増加などコロナ禍で悪化が懸念。一方、テレワークが急速に普及するなど、新たな働き方の動きも

【若年無業者】15～39歳人口に占める無業者の割合



〔総務省「労働力調査」〕

①全ての子供・若者の健やかな育成

全ての子供・若者が、かけがえのない幼年・若年期を健やかに過ごすことができ、かつ人生100年時代、絶え間ない変化の時代を幸せ(Well-being)に、自立して生き抜く基礎を形成できるよう、育成する。

【基本施策】

自然・文化体験の充実と1人1台ICT環境の有効活用、少人数学級の実施、健康・安全教育、消費者教育の推進、社会形成に参画する態度、若者の雇用安定化 等

②困難を有する子供・若者やその家族の支援

困難を有する子供・若者が、速やかに困難な状態から脱し、あるいは困難な状況を軽減・コントロールしつつ成長・活躍していけるよう、家族を含め、誰ひとり取り残さず、かつ非常時においても途切れることなく支援する。

【基本施策】

担当大臣のリーダーシップの下での孤独・孤立対策、自殺、虐待、貧困、ひきこもり等への対策、複合的課題への包括的支援、SNS相談やアウトリーチの充実、SOSを出し、受け止める力の育成 等

③創造的な未来を切り拓く子供・若者の応援

子供・若者が、一人一人異なる長所を伸ばし、特技を磨き、才能を開花させ、世界や日本、地域社会の未来を切り拓いていけるよう、応援する。

【基本施策】

STEAM(Science,Technology,Engineering,Art,Mathematics)教育、起業家教育、“出る杭”の応援、地力移住、地域貢献活動の促進 等

④子供・若者の成長のための社会環境の整備

家庭、学校、地域等が、子供・若者の成長の場として、安心・安全な居場所として、Well-beingの観点からより良い環境となるよう、社会全体、地域全体で子供・若者を育てる機運を高め、ネットワークを整え、活動を促進する。

【基本施策】

多様な居場所づくり、子育て支援、家庭教育支援、地域と学校の協働、ネット利用の適正化、働き方改革、テレワーク、子供・若者への投資の推進 等

⑤子供・若者の成長を支える担い手の養成・支援

教育・心理・福祉等の専門人材から、地域の身近な大人、ひいては当事者たる子供・若者自身に至るまで、多様な担い手を養成・確保するとともに、それぞれの連携・協働の下、持続的な活躍が可能となるよう、支援する。

子どもを支援すること

「みんなで鍋をつつくって本当にあるんだね」
こども食堂で女の子が言うのです。
テレビでは見たことがあるけれど、その子が実際に家族で鍋をつついた経験などなかったから。

自分にとって当たり前だと思っていることが、誰にとっても当たり前なわけではない。
その子にとって家族で鍋をつつくってというのはテレビの中のドラマでのこと。そんなことは現実ではないと思っていた。

人を支援するというのは、自分の「当たり前」を問うことなんです。





自分を殺してしまった子ども。だれかを殺してしまった子どもとたくさん出会ってきました。母の再婚相手に週3回セックスの相手をさせられている少女は解離性同一障害になりました。彼女を支援しようと思っても児童相談所は相手にしてくれなかった。婦人相談所もまったく頼りにならなかった。

性風俗でしか生きられない少女たちもいる。彼女たちに必要なのは三つ。すぐに住むことができる部屋。すぐに働けるところ。子どもを預かってくれるところ。今すぐに提供してくれるのは、この国では性風俗しかありません。。

社会保障は何もしてくれない。負けてますよ。



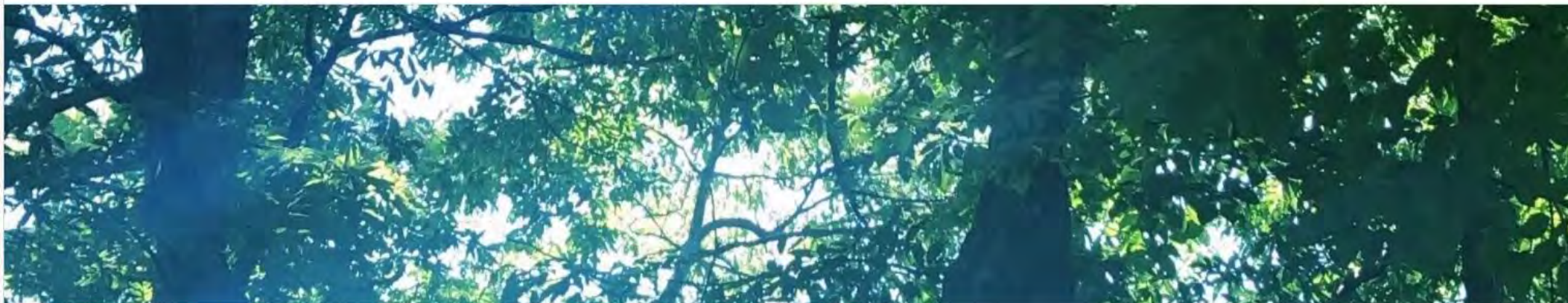
子どもはうそをつく。
どれだけ支援しても裏切られる。部屋代を踏み
倒して逃げていく。3度も4度も裏切られる。
それでもあきらめずにやっていると、
何年かが過ぎて、子どもは変わってくる

こもれび文庫

 note



 投稿



こもれび文庫



設定

いじめ・虐待・引きこもりを考えるソーシャルワーカー&当事者・学生の集まりです！お問い合わせ：comolism@gmail.com

いじめ、虐待、障害、ひきこもり……。傷つきやすい若者の感性、透き通った悲しみ、小さなぬくもりを社会に伝える。ネガティブにばかり見るから、ますますひきこもる。追い詰めて事件を起こす。必死に自分を守りながら、やさしく内面を耕している。ホッと、ひと呼吸できる社会。彼らの「居場所」をつくる。

月の光

まっくらな部屋で目をつぶって、ただひたすら眠ることだけを考えた。

眠ることに必死になって汗をかいて、のどが渴いて、焦りに心臓の音は大きくなった。

中学1年夏から3年まで不眠症に悩まされた。過度なストレスという医者言葉に、目の下に真っ黒なクマをつくった私は学校での部活……、いじめのことを思い浮かべた。

どうしても眠れない。

家の中からは物音ひとつしない。

窓の外の世界もどんどん音が消えていく。世界が真夜中に向かっていく。私の心臓の音はよく響いた。

起きているはずがないと思いながら、まっ暗な部屋の中で電話をかけた。「もしもし」
その言葉に飛び上がった。

「この間、目の下のクマをみて、もしかしたら眠れてないのかなと思って。いつか電話をかけてくるかもしれない。その時は絶対に電話に出てやろうって、おじいちゃん待っていたんだよ」



汗がひいて、涙が出た。

「まっ暗なところで電話していると、ひとりぼっちに感じる。でも電気をつけると体は目覚めちゃうから、外の月明りにあたってごらん」

横浜の何もない夜空は月と星の光がよく見えた。

「おじいちゃんも同じものを見ているよ、安心するだろ」

細かくてやわらかい光の中で、こそこそおしゃべりをした。

おじいちゃんの低くてゆっくりで温かい声は、私のすべての電源スイッチを優しく切っていった。

私だけが知っている真夜中の光。

まっ暗だと思っていた中にも、私に当たってくれる光はあった。